

MIRAI

【人と防災未来センターニュース】

特集1	アルジェリア大統領、センターを見学	1
特集2	人と防災未来センターの災害対応の現地支援について	2
	あれから10年 震災をふりかえる	4
	ひと未来館初めての出張ワークショップを開催	6
	震災を忘れないでー音楽と人形劇の集い	7

特集1

アルジェリア大統領、センターを見学

平成16年12月8日、アルジェリア地震（平成15年5月21日に発生）の支援に対するお礼のために、アルジェリアのアブデラズィズ・ブーテフリカ大統領が神戸を訪れ、人と防災未来センターを見学されました。

アルジェリア地震の際には、当センターからは越山専任研究員が国際緊急援助隊専門家チームのメンバーとして参画し、復旧・復興に関する助言等の活動を行いました。

大統領は、当センターの特別企画展などの展示コーナーを見学された後、アルジェリア地震の時に、現地の小学校に絵を贈った神戸市立真野小学校の児童や国際緊急援助隊、アジアアフリカ環境協力センター等、アルジェリア地震支援関係者との集いに参加されました。大統領は支援に対する感謝と両国の友好関係の発展について述べられました。

また、アルジェリア大統領と専門家による防災協力協議では河田センター長によるプレゼンテーションも行われました。

今回の大統領訪問でセンターへの期待の大きさを再確認し、今後も防災協力について貢献していきます。



河田センター長の案内で展示を見学する大統領



国際緊急援助隊と歓談する大統領（大統領の右側が越山専任研究員）



真野小学校の児童の輪に入る大統領

<台風23号>

平成16年10月19日から21日にかけて、台風23号により兵庫県をはじめとする41都道府県が被災し、そのうち18府県で、94名の死者が出るなど、甚大な被害が生じました。人と防災未来センターでは、堤防が決壊するなどにより大きな被害が生じた兵庫県豊岡市、出石町、洲本市に、災害対応の現地支援として職員を派遣しました。

豊岡市では、10月20日に堤防が決壊した後、市内の8割が浸水被害を受け、22日午前まで水が引かないなど大きな被害となりました。出石町の出石川破堤地点や洲本市の浸水被害が大きかった地域では、1ヶ月半たった調査時点においても、住宅をはじめとして復旧、復興にはまだまだこれからという状況でした。

現地調査では、(1) 初動対応、(2) 水害に伴う災害廃棄物、(3) ボランティア、(4) 被災者支援、に関するヒアリング調査を行いました。



豊岡市内の様子

今後の課題として、初動時はもちろんのこと応急復旧、復旧・復興期において、いかに市民の視点に立った住民への情報提供手法のあり方について検討する必要があり、また、初動時における各関係機関との情報連携体制の確立、水害による災害廃棄物を迅速に街から取り除くための手法、水害に伴う住宅被害に関する支援策などが検討課題としてあげられます。

<新潟県中越地震>

平成16年10月23日17時56分に発生した新潟県中越地震では、死者40人を数え、阪神・淡路大震災以降の地震災害では最も大きな被害をもたらしました。人と防災未来センターは、10月24日に被害状況の調査を実施し、10月25日～11月7日まで新潟県災害対策本部に専任研究員を派遣し、阪神・淡路大震災の災害対応の経験を元に災害対応の全体調整などに関する助言や情報提供を中心に2週間の継続的な支援活動を行いました。

また、現地調査を再度実施するとともに、10月28日から31日にかけては、ボランティアセンターに対して、災害ボランティア活動のマニュアル作成支援、避難所の情報収集体制づくりの支援、ボランティア団体と新潟県との情報収集に関わる調整支援などを実施しました。

さらに10月27日、11月10日には、河田センター長が泉田新潟県知事と会談し、新潟県が今後の復興に向けて留意すべきことなどについて数項目を提言しました。この場で泉田知事から人と防災未来センターに対し、復興過程も引き続き支援して欲しいとの要請があったことを受け、今後も必要に応じ様々な助言等を行っていく予定です。



新潟県災害対策本部で助言を行う越山研究員(右)

<スマトラ島沖地震>

平成16年12月26日、インドネシアスマトラ島西方沖を震源とするM.9.0の地震が発生しました。これに伴う大津波により、インド洋沿岸諸国が被災し、死者合計30万人を超える（2005年1月31日現在）など、激甚な被害となりました。

当センターは、この未曾有の被害の被害状況を把握し、研究機関として被災国や国際社会になしうる貢献策を検討するとともに、同様の津波被害が懸念される我が国にもその教訓を活かすべく、平成16年12月28日(火)～平成17年1月5日(水)にスリランカ民主社会主義共和国コロンボ及び被災地に深澤副センター長を派遣し（アジア防災センター調査団に同行）現地調査を行いました。



津波による被害の様子



スリランカで現地調査を行う深澤副センター長（中央）

写真：アジア防災センター提供

「スマトラ沖地震に伴うインド洋大津波被災地の調査報告展」

今回の大津波により大きな被害を受けた「スリランカ」、「タイ」の2カ国の調査に基づく写真（約20点）や、被災国の今後の防災力の向上についての考察などを展示しています。

期間 平成17年1月17日～3月31日まで

場所 防災未来館2階資料室前（スマトラ沖地震の展示は無料ゾーンで開催しています）



展示の様子

いずれの調査報告書もセンターホームページ

(<http://www.dri.ne.jp/html/res/rindex.html>)よりダウンロードできます。

この展示にあわせて、被災者支援のため、募金箱を設置し、募金活動を実施します。

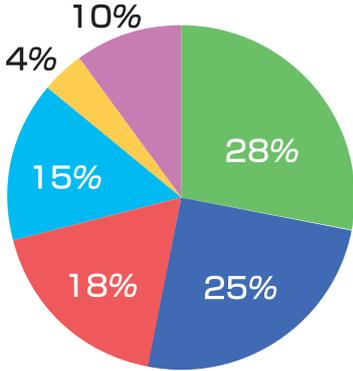
なお、集まった募金は、スマトラ沖大地震兵庫県義援金募集委員会を通じて、被災地へ送られます。



あれから10年 震災をふりかえる ～資料室に寄せられた質問より～

考えておこう！いざというときの備え

【阪神・淡路大震災関連で寄せられた質問の主な内訳】



- 人々の様子
- 地震の状況
- 建物・交通・ライフラインなど
- 支援とボランティア
- 復興について
- その他

平成17年1月に震災から10年という節目の年を迎えるにあたり、各地で記念事業が計画・開催されています。資料室にも平成14年4月の開室当初から現在に至るまで様々な質問が数多く寄せられており、震災以降、地震や防災について人々が大きな関心を持っていることがうかがえます。

12月中旬より展示中の『震災をふりかえる～資料室に寄せられた質問より～』では資料室に寄せられた800件（平成16年11月現在）を超える質問の中から、一部の内容を紹介しています。その他に今までに出版された絵本から当時の状況を振り返る『えほんでみる阪神・淡路大震災』も展示していますので、ぜひご来館ください。

平成16年は新潟県中越地震をはじめ、大型の台風上陸やそれに伴う水害が発生するなど、日本各地が大きな災害に見舞われました。資料室では阪神・淡路大震災関連を中心に防災関係の図書資料を閲覧していただけます。ご家族で、地域で、学校や職場で過去の災害の教訓をもとに災害への備えや防災の意識について改めて考えてみませんか？

阪神・淡路大震災“わたしたちの復興”プロジェクト「個人復興史」募集中

募集期間：平成18年3月31日まで

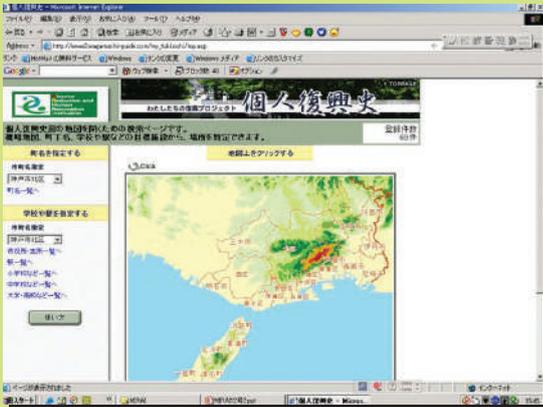
「個人復興史プロジェクト」とは、被災者が震災からどのように復興したのかを、市民自らが写真や文章で位置情報とともにコンピューター地図上に記録し、デジタルデータとして後世に継承するとともに、インターネットを通じて国内外に効果的に情報発信します。

募集内容

- 個人、団体、地域、学校等の復興の歩みや復興への取組がわかる写真（震災前、震災直後、復興への取組、現在）※簡単な説明コメントを書き込んでください。
- 震災時の思い又は復興にいたる経過をつづった文章など

募集方法

- ご家庭等にあるパソコンから、人と防災未来センターのホームページを通じて入力していただけます。
URL:<http://www.dri.ne.jp>
- ご自分でパソコンから入力できない方は、人と防災未来センターへ写真等を郵送していただいても結構です。郵送の場合は、予め下記に電話連絡をお願いいたします。
電話：078-262-5058（資料室）

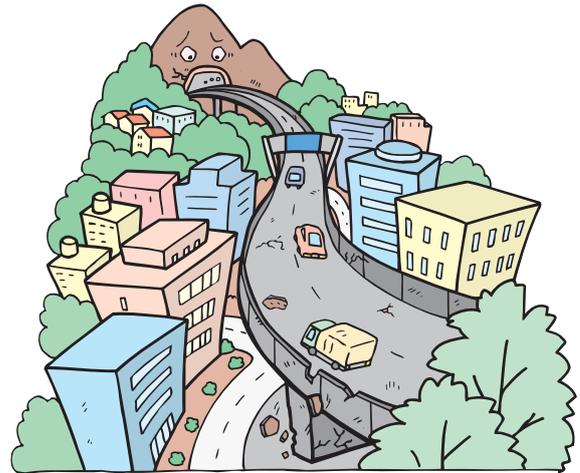


紀伊半島沖・東海道沖地震に関する検討会開催

人と防災未来センターでは、平成16年11月22日に大阪市において、9月5日に発生した紀伊半島沖・東海道沖地震に関する行政対応検討会を開催しました。この検討会では、近畿府県の8自治体（兵庫県・神戸市・大阪府・大阪市・京都市・奈良県・和歌山県・三重県）が、実際に行った行政対応を報告するとともに、来るべき東南海・南海地震に備えてどのような視点から対策に取り組むべきかを検証する目的で行われました。

各自治体からの報告を踏まえた課題について専任研究者らのコーディネートのもと、今後の対策に向けた活発な議論が行われました。最後に、林春男センター上級研究員（京大教授）からの総括コメントで、「自治体間で協力して解決すべき問題が多数あることが判った。その第一歩として、対応記録だけでも同じ書式で統一してみてもどうか」という具体的な提言がありました。

この検討会は、文部科学省大都市大震災軽減化特別プロジェクト（大大特）による、京都大学防災研究所からの受託事業「地方自治体における防災プログラムの開発と普及」（平成16年度～18年度）の一環として開催されました。この事業では、東南海・南海地震による被害の軽減化に向けて、近畿圏の自治体とともに戦略計画を策定することを目的としています。



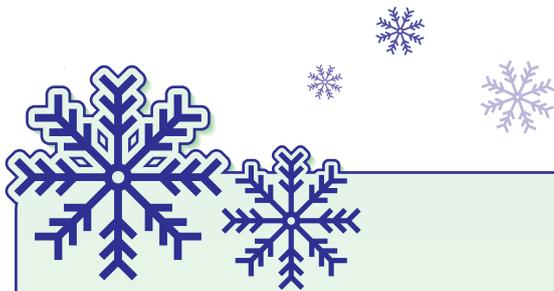
専任研究員による公開シンポジウム開催

阪神・淡路大震災10年を市民の立場で検証する「市民とNGOの『防災』国際フォーラム」の一環として、平成16年12月10日（金）に、人と防災未来センターの専任研究員等が中心になり、神戸市においてシンポジウム「阪神・淡路から何を学ぶか：人と防災未来センター専任研究員の視点から」を開催しました。

林敏彦上級研究員をコーディネーターとし、越村俊一・越山健治・菅磨志保・永松伸吾・秦康範・福留邦洋の6名の専任研究員が、それぞれの問題意識に基づき、阪神・淡路大震災の教訓について語りました。フロアからの質疑応答では、市民やマスコミ関係者らから「多様な専門分野を持つ研究員が集うことによってできたことは何か」「住宅再建支援についての制度構築が望まれる」「市民の防災意識向上には何が必要か」など、多くの質問が寄せられ、研究員との真剣な議論が交わされました。

詳細な議事録については、人と防災未来センターホームページ (<http://www.dri.ne.jp/>) に掲載しています。





ひと未来館 初めての出張ワークショップを開催

人と防災未来センターでは幼稚園児を対象にした「雪ってな〜に？ 雪の結晶ワークショップ」を平成16年11月19日、神戸市内の塩原学園幼稚園で開催し、園児45人が雪の結晶をかたどった切り紙細工の体験をしました。

これは当センターのひと未来館で開催中の企画展「絵本ひろば04秋・冬」と連動した企画で、当館のインストラクターが外部に出向いてのワークショップは今回が初めて。まずはインストラクターから「雪はどこから来るの？」「どんな雪の結晶も6本の枝が出ているんだよ」と、自然界の水の循環システムや雪の構造などをやさしく解説。

続いて、6つに折りたたんだ紙を用いて切り紙細工がスタート。園児たちは真剣な面持ちで紙を切り抜き、紙を広げた瞬間に現れる「雪の結晶」を見て口々に「きれい」と歓声をあげていました。



この日作った「雪の結晶」はタペストリーに貼られ、「絵本ひろば冬」で展示されました。12月17日には塩原学園幼稚園の園児たちが館を訪れ、自分たちの作った作品が展示されているのを見て、喜んでいました。

企画展会場の様子





震災を忘れないでー音楽と人形劇の集い



人形劇「トランクシアター」

平成17年1月8日(土) センター1階ガイダンスルームにおいて、「震災をわすれないでー音楽と人形劇の集い」(主催:「地震・津波防災と稲むらの火神戸」実行委員会)が開催されました。

これは、防災未来館で開催中の「稲むらの火と人形劇」企画展と連動したイベントで、阪神・淡路大震災の教訓や地震のときの備えをわかりやすく子ども達に伝えようというものです。

<内容>

●メッセージ「震災と子どもと人形劇」

いい顔・笑顔 人形劇の会 幸田眞希 氏

阪神・淡路大震災で被災したこどもたちの笑顔を取り戻すための公演活動を振り返りながら。

●人形劇「トランクシアター」

人形劇トロッコ代表 瀧見秀明 氏

阪神・淡路大震災後、被災地で人形劇の支援公演活動を展開。

●紙芝居「稲むらの火」

神戸市立シルバーカレッジ「童とともに」

●関島秀樹ミニ・コンサート

あの日を忘れない」ー阪神・淡路大震災復興十周年に寄せてー



紙芝居「稲むらの火」



関島秀樹ミニ・コンサート

小さな子どもから大人までたくさんの方が見学に来られ、人形劇では大きな笑い声が、コンサートでは楽しい歌声が会場中に響き渡りました。また、紙芝居では真剣にみる子ども達の姿が印象的でした。

「ありがとう10周年。 『風が運んだ救援隊』を振り返る」 震災ボランティア写真展

阪神・淡路大震災から10周年を機に、後に日本のボランティア元年と言われるようになったあの時、被災地の誰かのためにつくってくれた一人ひとりの方に、今あらためて感謝の意を伝えるために、「ありがとう10周年。『風が運んだ救援隊』を振り返る」震災ボランティア写真展が平成17年1月25日、防災未来館で始まりました。

震災直後からボランティアとして様々な被災地で復興に携わった人々の姿を写真に捉え続けた写真家北川幸三氏による写真36点を展示するとともに、研究者のメッセージを紹介し、震災ボランティアについて考えます。平成17年3月13日まで。



人と防災未来センターの 演習システムの論文が地域安全学会奨励賞を受賞

平成16年11月5日から3日間、静岡県地震防災センターにおいて開催された第15回地域安全学会研究発表会において、センターの秦康範専任研究員らによる、「災害対応演習システムの開発」の論文が、学会奨励賞を受賞しました。



論文タイトル等：災害対応演習システムの開発
 秦康範 河田恵昭 阪本朗一 高梨成子
 地域安全学会論文集No.6,2004.11 pp367-372

「全国自治体・善政競争・平成の関ヶ原合戦」 の第2回平成関ヶ原功名賞

地方分権の推進にかかる取り組みを対象に、先駆的・先進的な施策を表彰する「全国自治体・善政競争・平成の関ヶ原合戦」の第2回平成関ヶ原功名賞に阪神・淡路大震災記念「人と防災未来センター」の運営が選ばれました。



企画展など展示によって一般市民の防災意識の醸成が図られており、人材育成や調査研究、災害対策専門家派遣など防災対策の取り組みを通じ、震災から得られた教訓を風化させることなく、地域を超え、世代を超えて発信、世界の防災対策に貢献していることが受賞理由です。

「友の会」会員募集

人と防災未来センター友の会は、センターの活動に協力し、積極的に利用して防災対策の大切さといのちの尊さを学習しようとする人々の親睦を深め、センターと連携しつつ、社会の防災力の向上に寄与することを目的に設立されました。

どなたでも入会できますので、たくさんの方の入会をお待ちしています！

*** 10月以降に入会された場合、半額になります。**

会員特典

1. センターへ無料で入館できます。
2. センターの最新情報が手に入ります。
3. 友の会のイベントに参加できます。

年会費

個人会員 3,000円
法人会員 一口 50,000円
 郵便振替：00940-2-160211
 口座名：阪神・淡路大震災記念
 人と防災未来センター友の会



MIRAI

【人と防災未来センターニュース】
Vol.12

発行／阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

お問い合わせ先

阪神・淡路大震災記念
人と防災未来センター

神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2 〒651-0073
 事務局／ TEL.(078)262-5060
 観覧案内／ TEL.(078)262-5050
 ホームページアドレス／ <http://www.dri.ne.jp/>

●開館時間 9:30～17:30(入館は16:30まで)
 ただし、7～9月は9:30～18:00
 (入館は17:00まで)
 金・土曜日は19:00(入館は18:00まで)

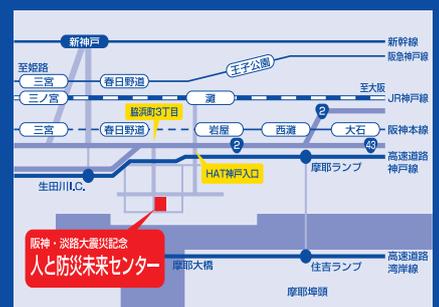
●休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
 年末年始の12月31日と1月1日
 ※ゴールデンウィーク(4月28日～5月5日)期間中は無休

●入館料金(団体は20名以上)

区分	防災未来館		ひと未来館		両館とも	
	個人	団体	個人	団体	個人	団体
大人	500円	400円	500円	400円	800円	640円
高校・大学生	400円	320円	400円	320円	640円	510円
小・中学生	250円	200円	250円	200円	400円	320円

※兵庫県内の小・中学生はココロカードを提示すれば無料。
 障害をお持ちの方及び兵庫県内に在住で65歳以上の方は上記の半額。障害者手帳又は年齢・住所のわかるものを提示ください。

交通マップ



- 交通 鉄道／阪神「岩屋駅」から徒歩約10分、JR「灘駅」南口から徒歩約12分。阪急「王子公園駅」西口から徒歩約20分。
 バス／JR・阪神・阪急・神戸市営地下鉄「三宮駅」から約15分。
 神戸市営バス 三宮駅前から約1時間間隔で運転。
 阪神電鉄バス 三宮駅前から約30分間隔で運転。
 車／阪神高速神戸線「生田川ランプ」から約8分、阪神高速神戸線「摩耶ランプ」から約4分、阪急・阪神・JR「三宮駅」から約10分。

■駐車場 有料駐車場(普通車100台駐車可能)のほかに近隣にも有料駐車場があります。

■バス待機所

予約制／無料
 観覧予約時に待機所利用のご予約をお願いします。

ご意見・ご感想は事務局まで。